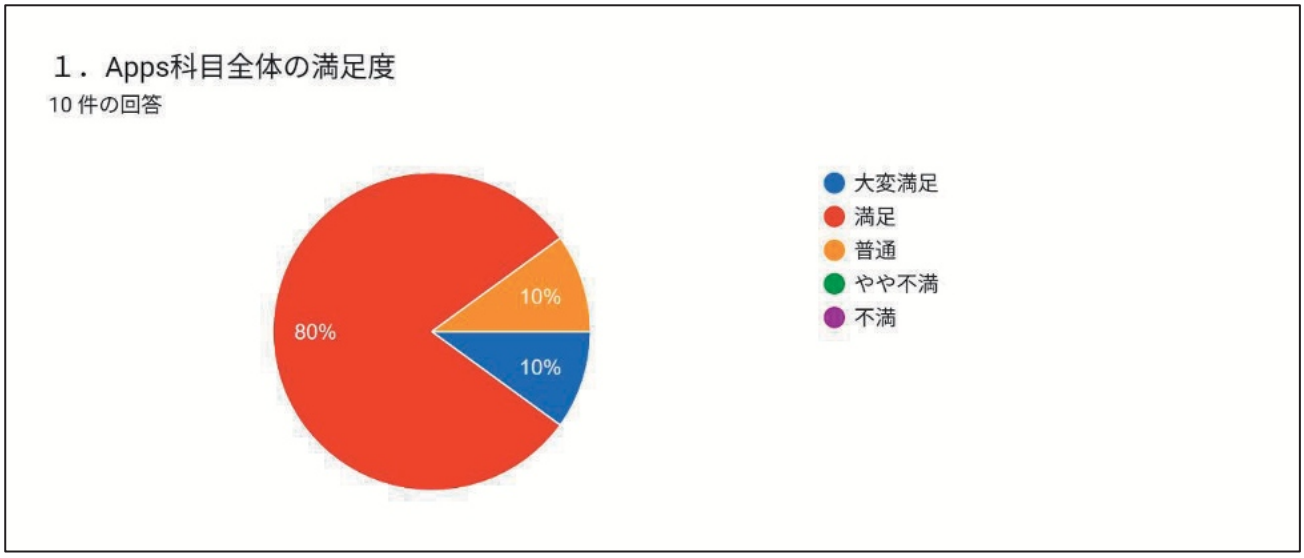
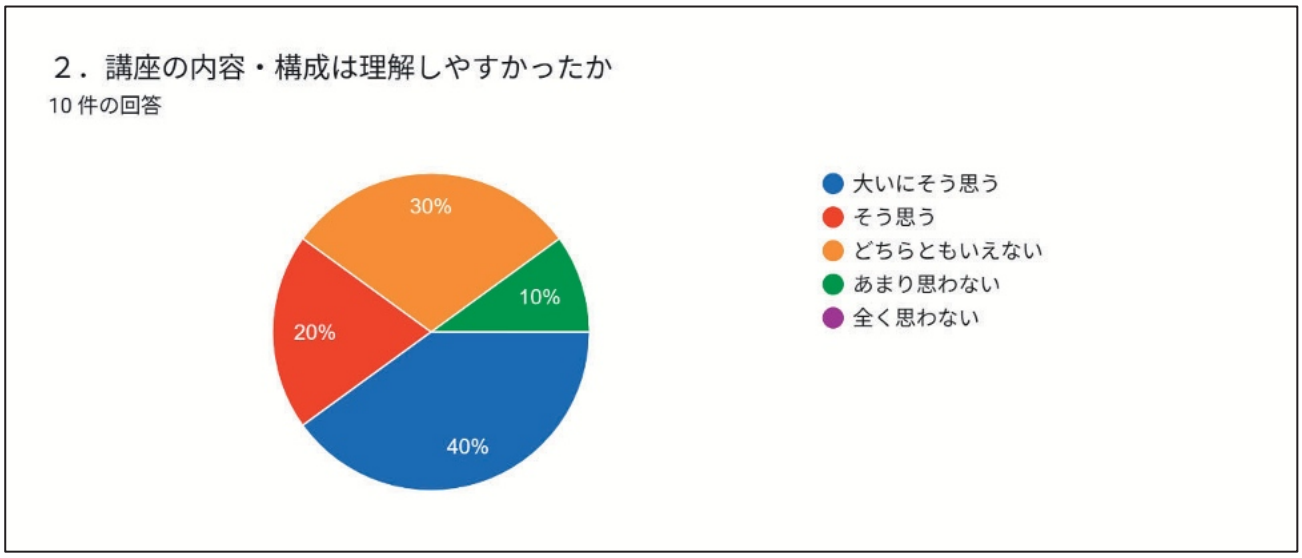
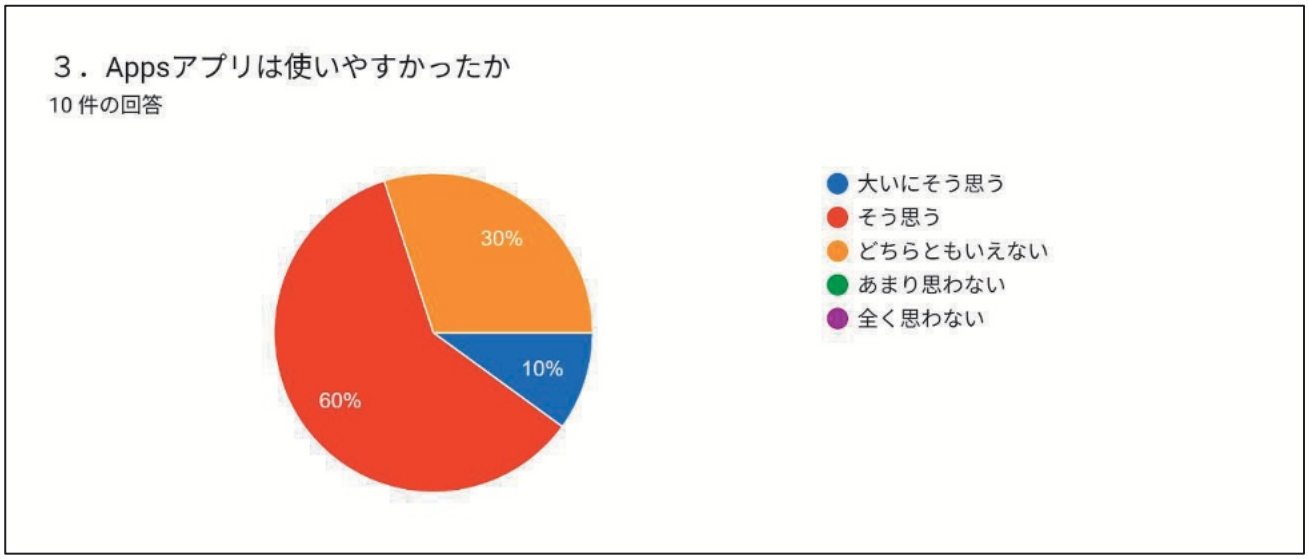
## 3.「IT ツール活用講座」(社会人対象)実施結果

「PowerApps」終了アンケート結果（IT ツール活用講座）社会人

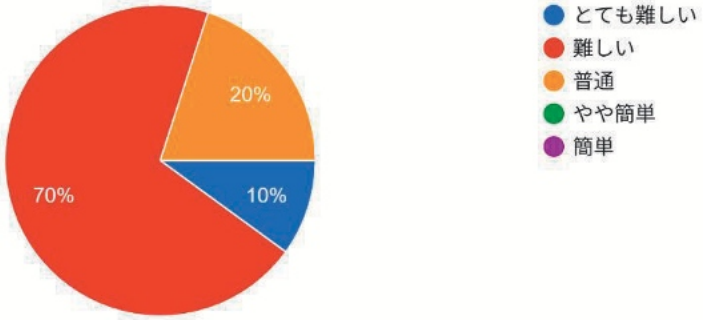


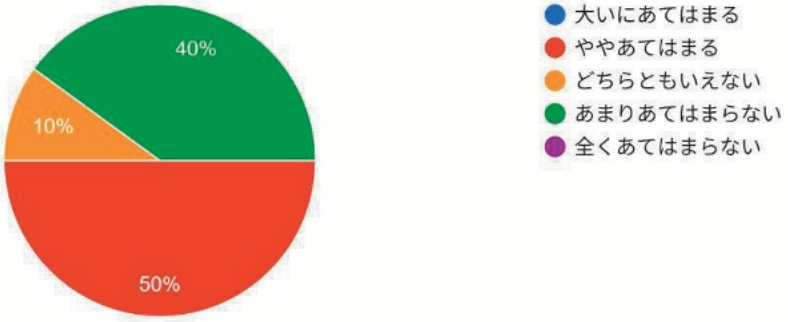
４．Appsの難易度

10 件の回答



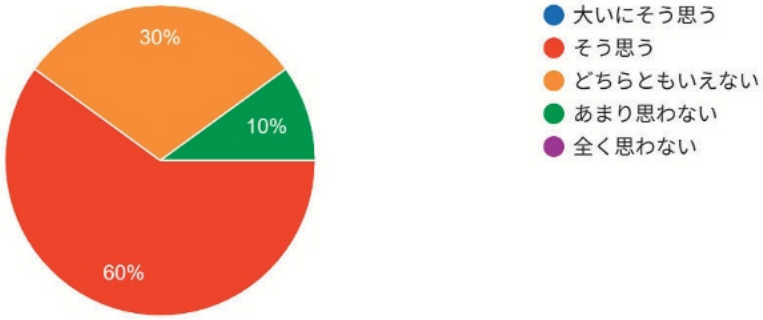

５．アプリ画面設定にて、入力項目、処理ボタン、一覧表画面などの操作を容易におこなえたか

10 件の回答



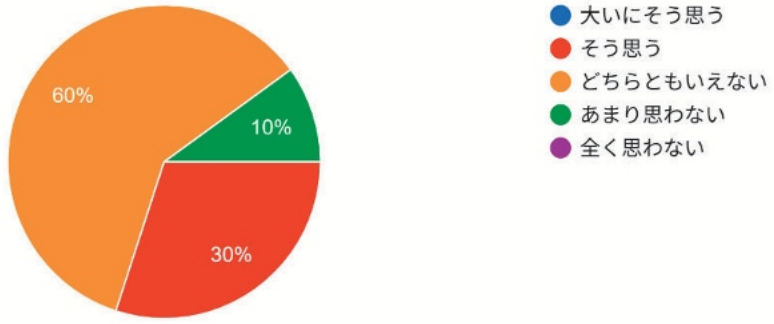

６．講座で扱った基本機能（画面構成、コントロール、関数、処理等）は概ね理解できたか

10 件の回答



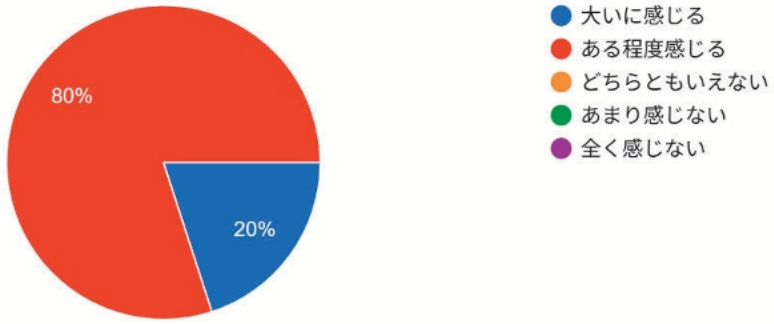
７．自分で簡単なアプリを作成できそうだと思うか

10 件の回答



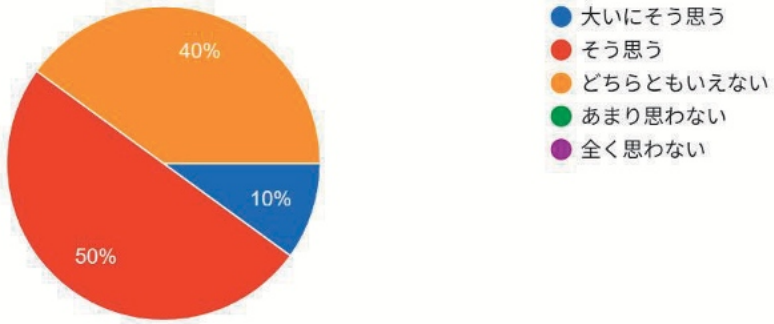

８．Apps科目を通して、自分の理解やスキルが深まったか

10 件の回答



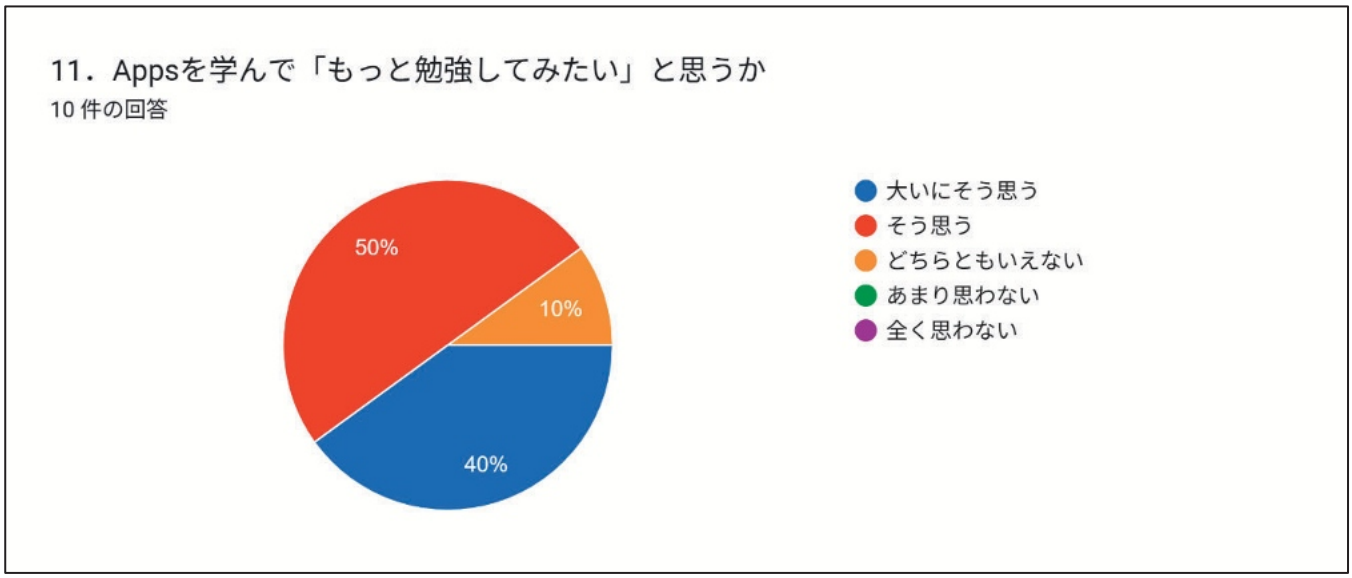

９．学んだ内容を今後の仕事や活動で活かせると思うか

10 件の回答



10. 特に「役に立つ」「業務効率化にできそう」と思った内容やポイントなど 7 件の回答

工場までいかなくても、または事務所まで来なくても在庫などがすぐ連動していると便利かと思います。
アプリで入力なので時間短縮できそれを紙も必要ないので紙の管理、保存の手間もなくなると思いました。
役立てるにはもっと初歩的なところからしっかりと学ぶ必要があると思う
データ活用、時間短縮
いつでもどこでもデバイスがあると業務ができる点。
PC 言語でのアプリ開発に比べたら簡単
会社全体で共有が可能で、かつ修正も誰でも出来、最新の情報がアップデート出来るのはいいと思う。



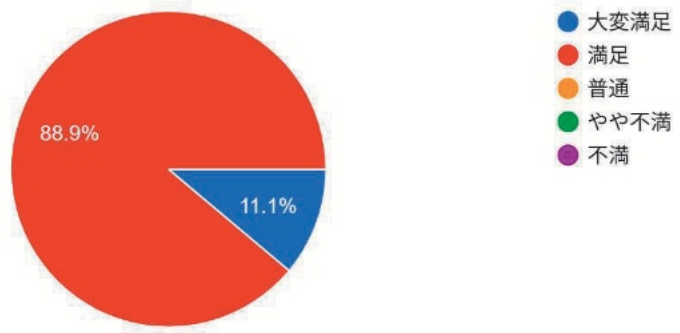

12. Apps 科目での自由意見 8 件の回答

自分のパソコンにないので練習できなかったのが残念でした
現状、業務への活用イメージがわきません。少しづつでも取り入れていきたいと思います
今後理解を深めるとさらに活用することが出来ると思います。
私には難易度が高すぎてとても難しかったです。
チームスに張り付けたコードの説明を付けたものが欲しい。
とても早足に進んでいたので指導員の方がもう一人いてくだされればスムーズだったと感じました。また自由設計時間がもう少しあるとよかった。 受講期間中にパスワードと ID で自由に入らせていただける告知があると自宅で少し復習などできていいかも。
講師の説明に合わせて操作したあと、自分が白紙から操作・作成する時間があれば、理解度が深まる。(指示されたとおりに作業はできるが、自分で作ることは困難)
365 を入手してあれば、様々な分野で簡単なアプリが出来そう。 作成には時間がある程度必要ではあるが、使用する人は手軽に使うことができるのはとてもいい。携帯でも出来るのがさらにいいと思う。

「Power Automate」終了・全体アンケート結果（IT ツール活用講座）社会人

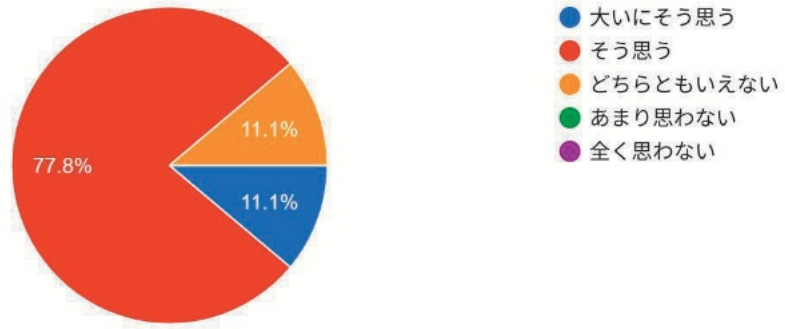
１． Power Automate科目全体の満足度

9 件の回答



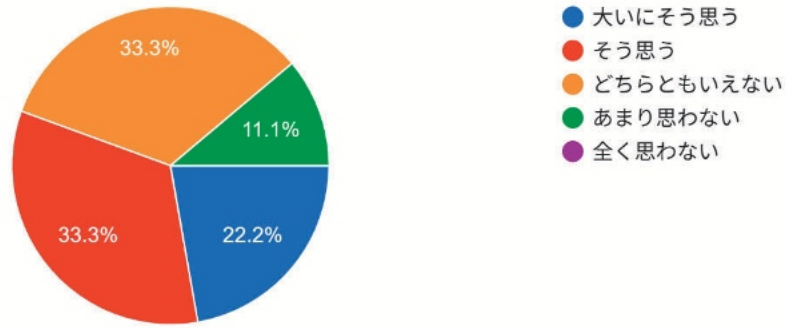

２．講座の内容・構成は理解しやすかったか

9 件の回答



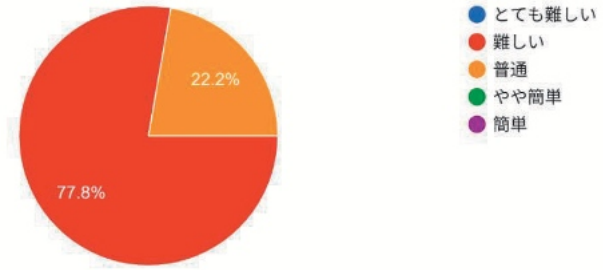

３． Power Automateの操作や画面は使いやすかったか

9 件の回答



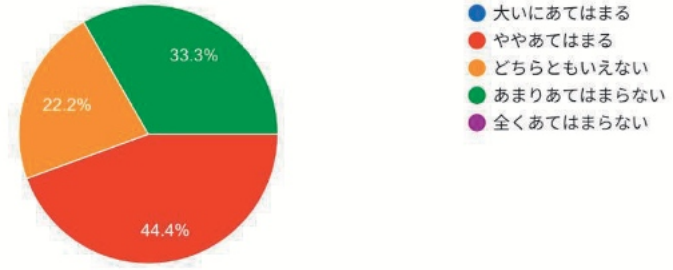
4． Power Automate の難易度

9 件の回答



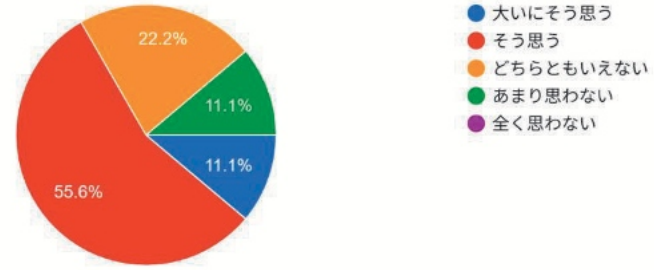

5．フローの作成や編集などの操作を容易におこなえたか

9 件の回答



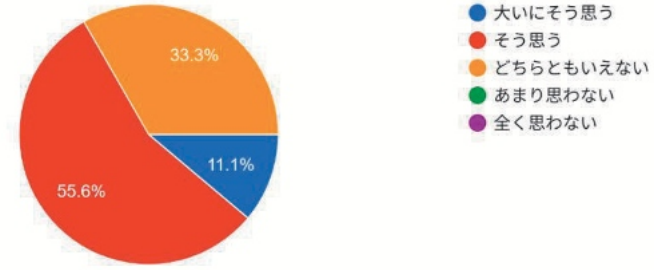

6．講座で扱った基本機能（ フロー作成、トリガー、アクション他）は概ね理解できたか

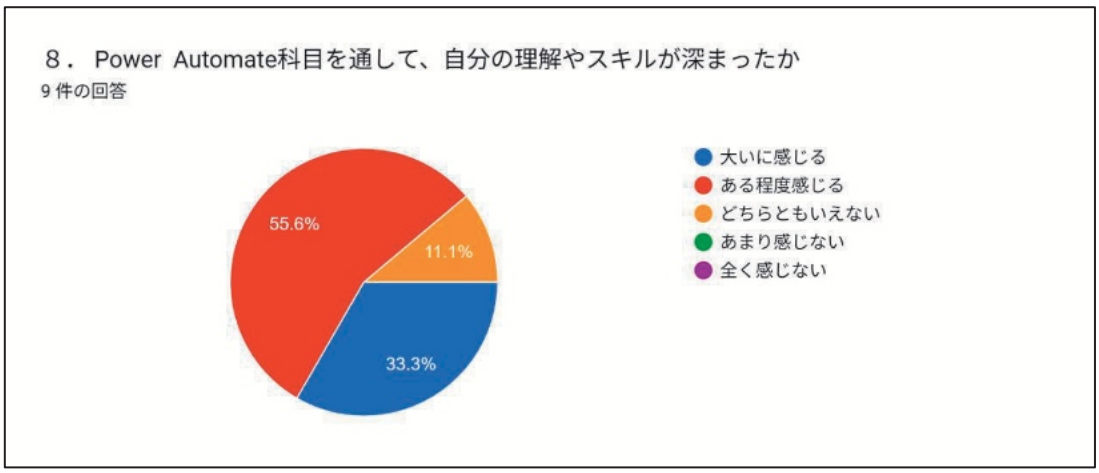
9 件の回答

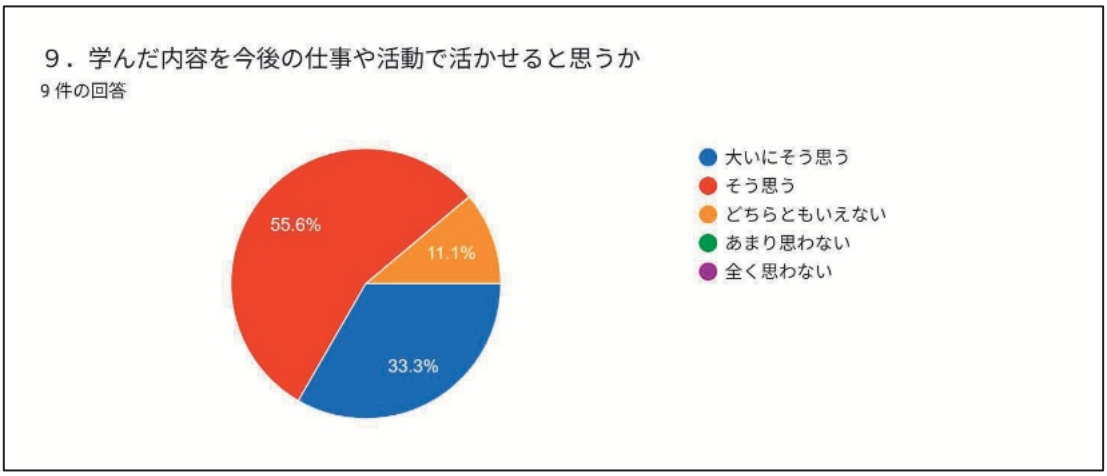



7．自分で簡単なフローを作成できそうだと思うか

9 件の回答

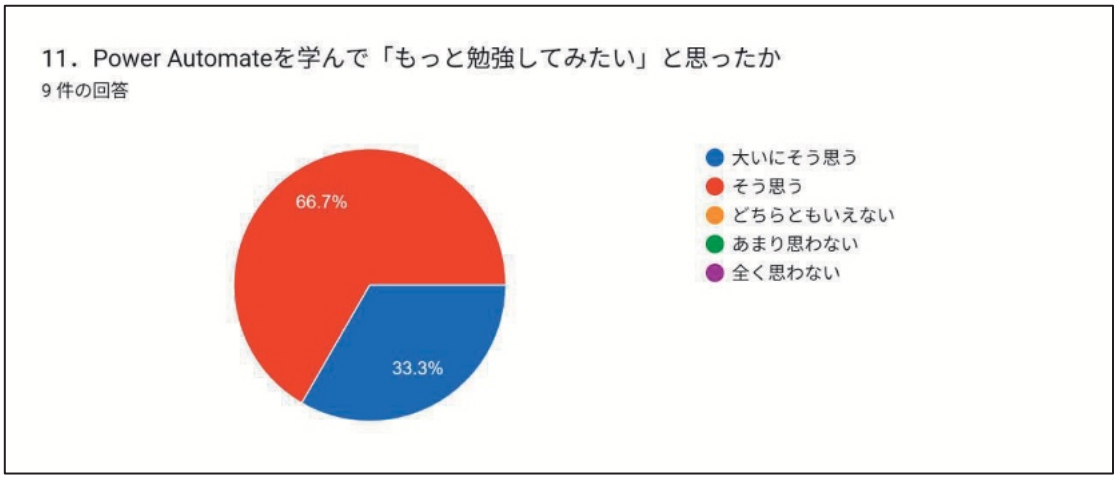




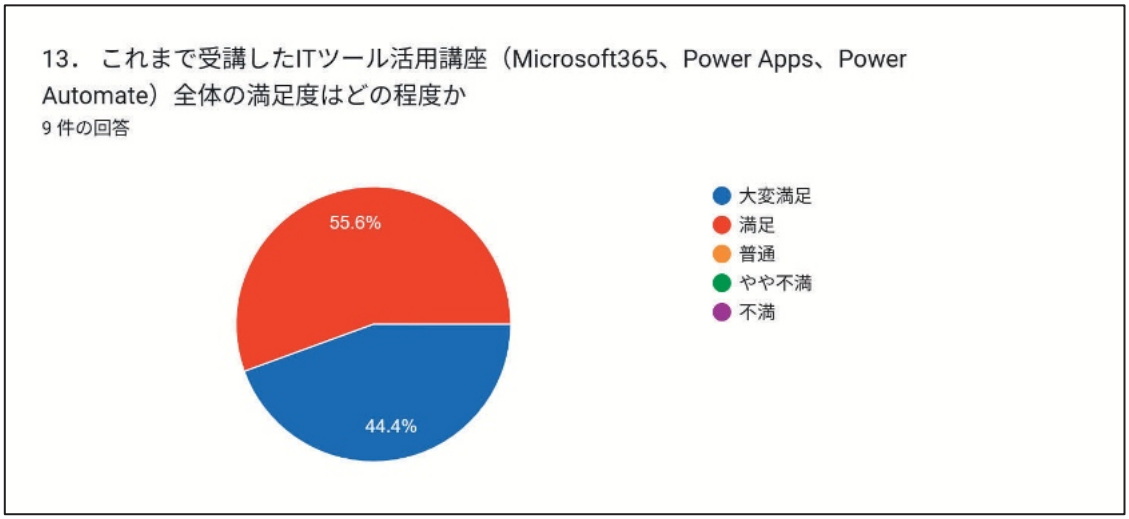

10. 特に「役に立つ」と感じたり、「フローの自動化で役立ちそうな場面やポイント」など 6 件の回答

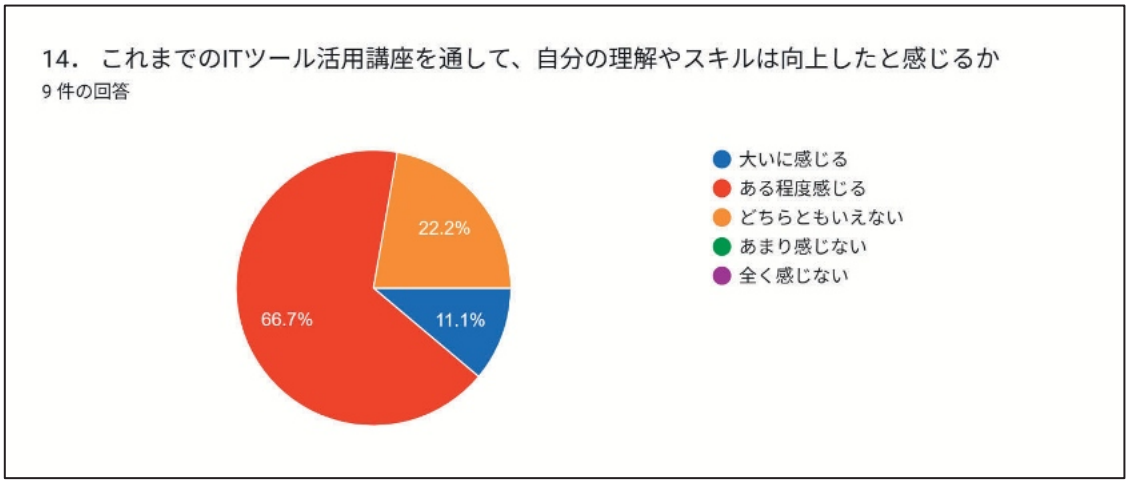
日報作成、転記作業
作業を細分化してひとつひとつ自動化できば、作業も減り、転記ミスなどがなくなる。
毎日の転記作業に役に立つと思いました。
日頃の転記のみの単純作業などは自動化できればかなりの負担が軽減されると思う
アンケート集計
業務の中で転記や集計などが多いので自動化を進めれそうなものが多くありそうだから

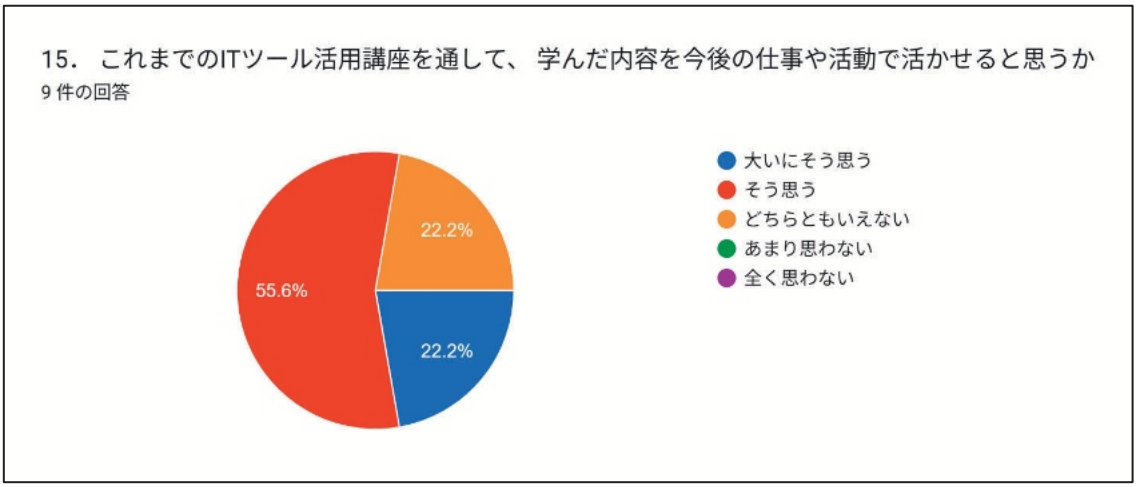


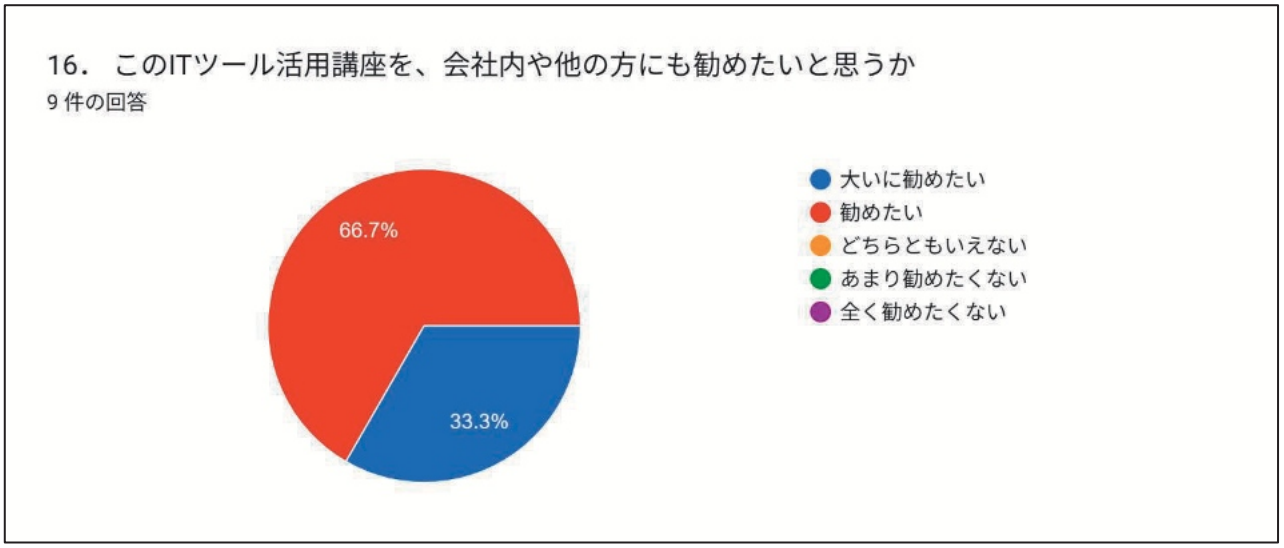
12. Power Automate 科目での自由意見 4 件の回答

データを持ち帰って勉強がしたかった。
自宅で YouTube などでかなり練習しました。AI にも色々と質問しましたが、なかなか出来ずに当初希望していた自作のものは断念しました。尋ね方にも工夫がいると学びました。
エクセル内での操作を Power Automate でどう表現する（扱う）かを知りたい。
どんどん使っていきたいです






17. これまでの IT ツール活用講座全体を通してのご感想や、特に印象に残った内容等がありましたらご入力ください。 6 件の回答

講義内でしか復習ができないので、何かできる方法を考えてほしい。Copilot の使い方の難しさを感じた。聞こうにも欲しいものが返ってこないのが現状であった。

先生の余談がとても興味深くおもしろかったです。 特に AI をフル活用されているところ。 話を聞くにつけ職場のアナログな環境が時代に取り残されているなと実感しました。 IT ツール活用の情報を知れたことで大きなシステムを入れなくても小さなことから業務改善できると感じました。

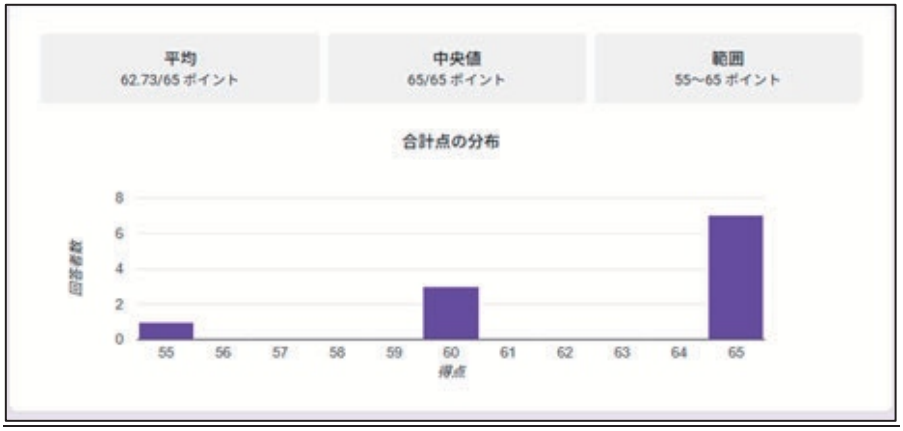
365 が何かもまったく理解していなかったので、どういうものかということが分かったのはよかったです。これからさらに実践して理解を深めていきたいと思いました。大変勉強になりありがとうございました。

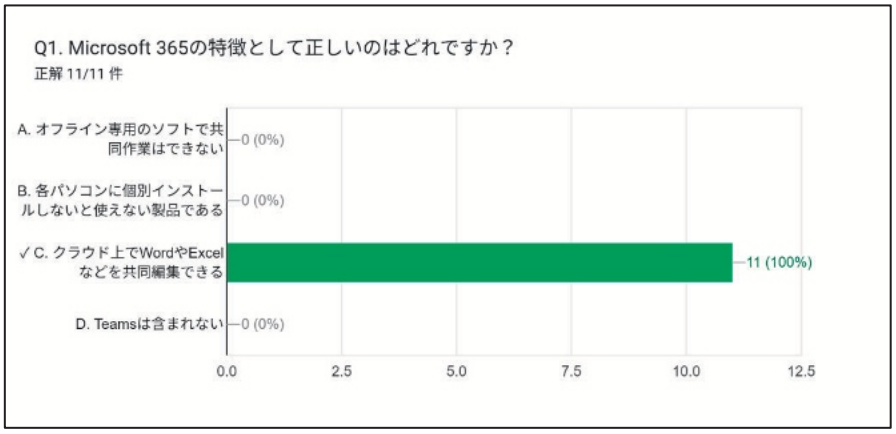
PowerApps の作業は思ったよりも難しかったです。Power Automate は Apps よりも理解がしやすく楽しい時間でした。この講座に参加出来て勉強できたことが非常に有意義な時間でとても有難かったです。

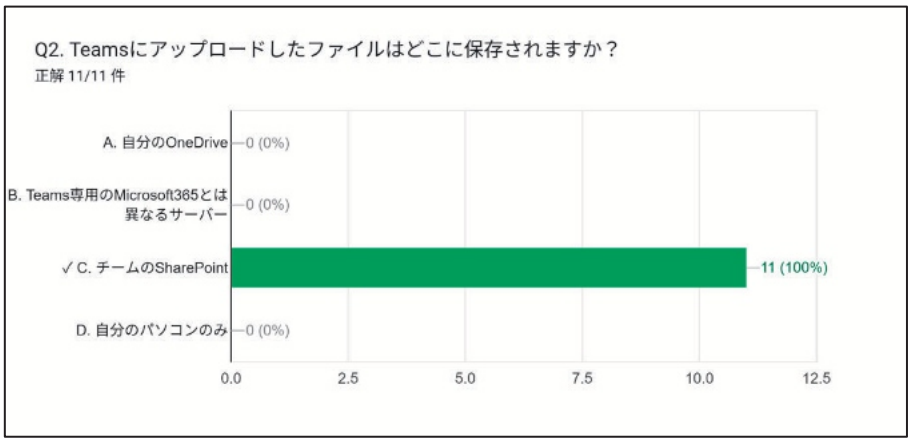
難易度の高いアプリ制作は業者に、中程度は自前で作りたい

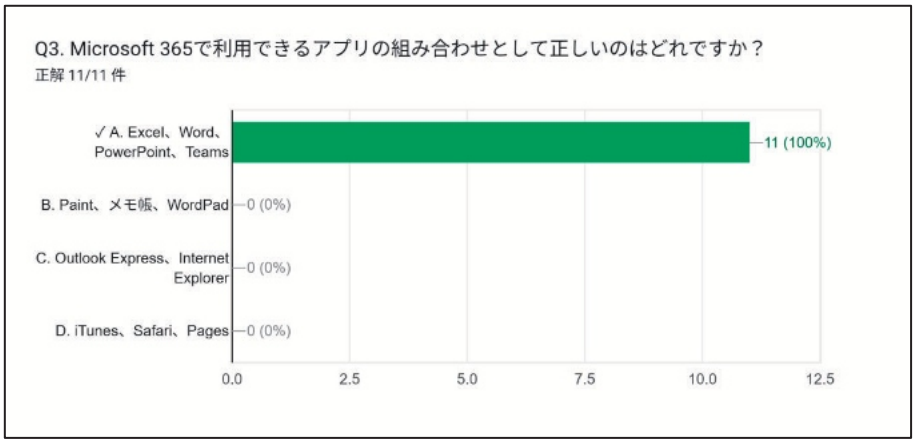
この 6 回の講座内容が有意義であったかどうかは、これから活用するかどうかにかかっていると思うので、どんどん活用し業務効率を上げ、有意義な講座であったと言い切れるようにしていきたい。

「Microsoft365／Power Apps」理解度テスト結果（社会人）



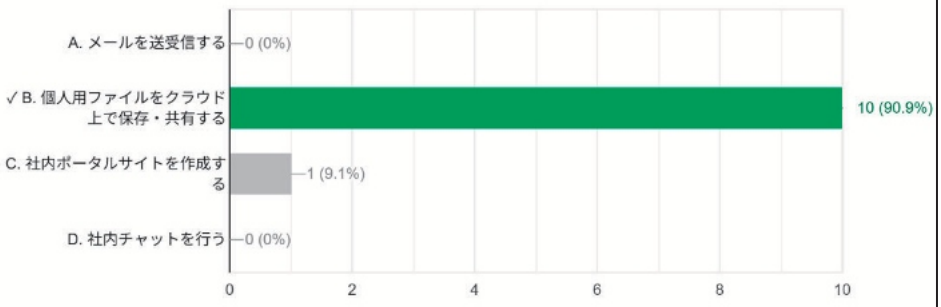



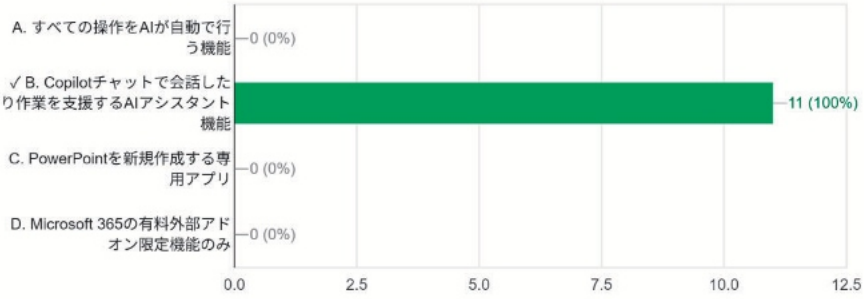
Q4. Microsoft 365での「OneDrive」の主な目的は何ですか？

正解 10/11 件



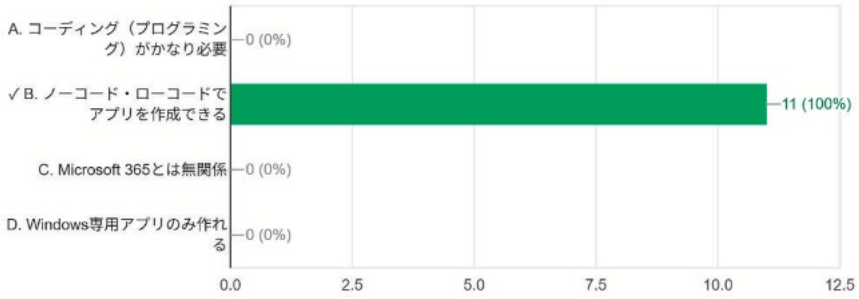

Q5. Copilot（コパイロット）について正しい説明はどれですか？

正解 11/11 件



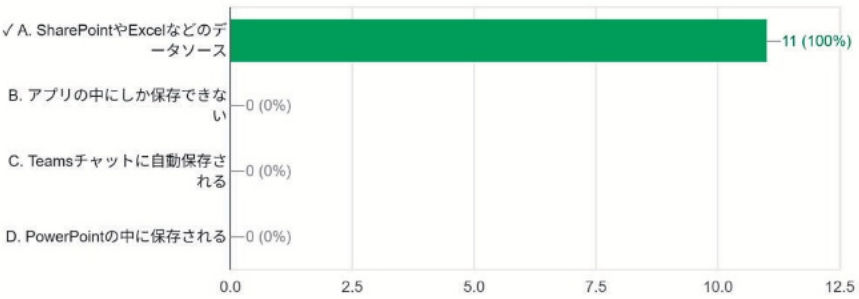

Q6. Power Appsの特徴として正しいのはどれですか？

正解 11/11 件



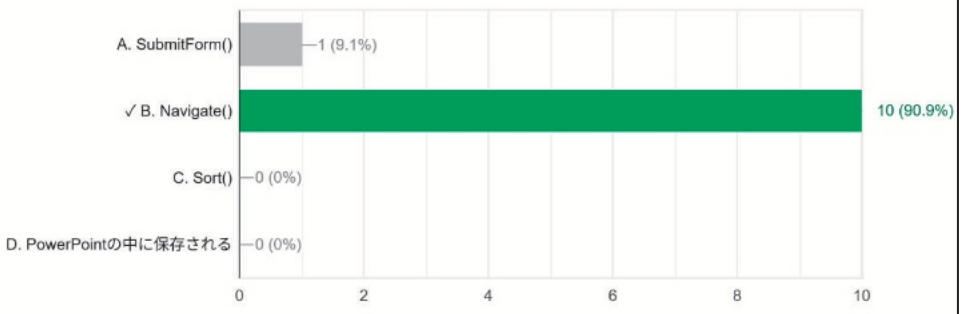

Q7. Power Appsのデータはどこに保存できますか？

正解 11/11 件



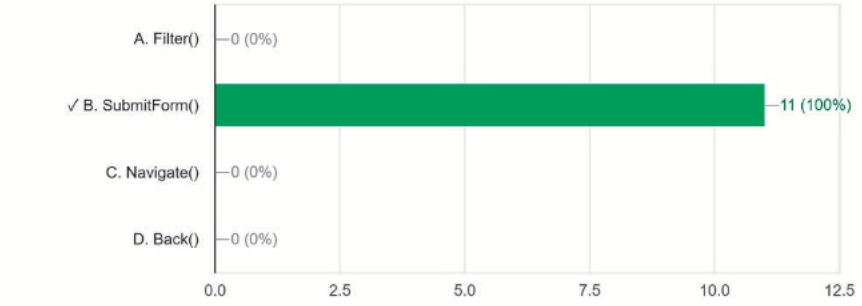
Q8. 画面遷移に使う関数として正しいのはどれですか？

正解 10/11 件



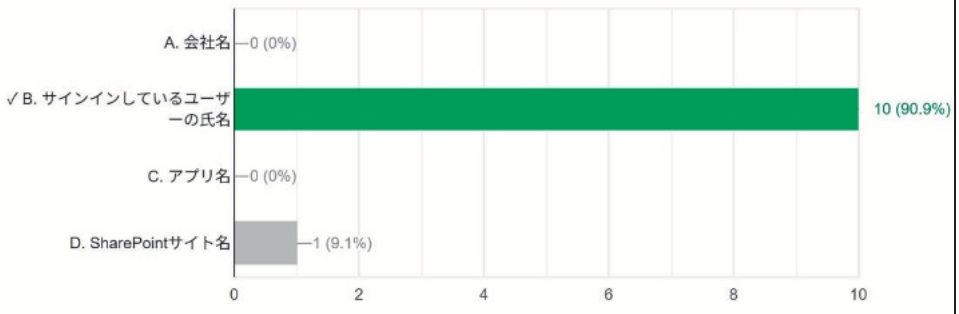

Q9. フォームの内容をSharePointリストに登録する関数はどれですか？

正解 11/11 件



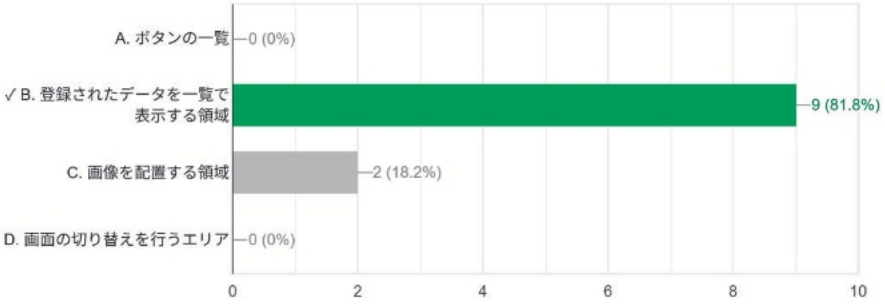

Q10. 「User().FullName」は何を表示しますか？

正解 10/11 件



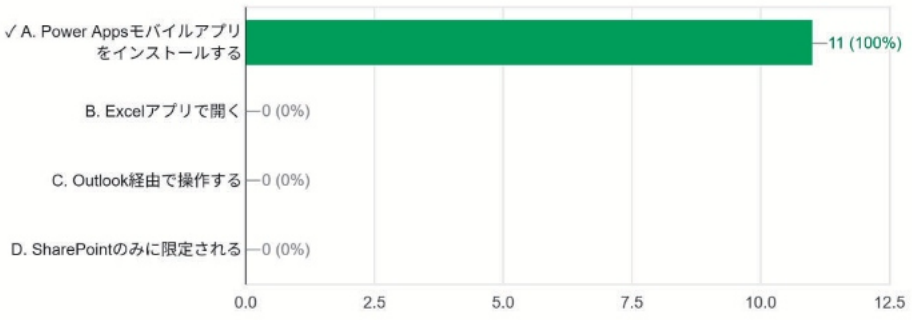

Q11. ギャラリー（Gallery）は何を表示するためのものですか？

正解 9/11 件



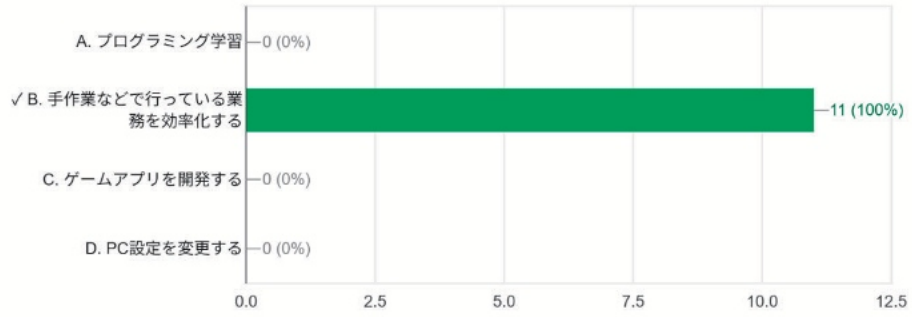
Q12. Power Appsで作成したアプリをスマートフォンで使うには？

正解 11/11 件

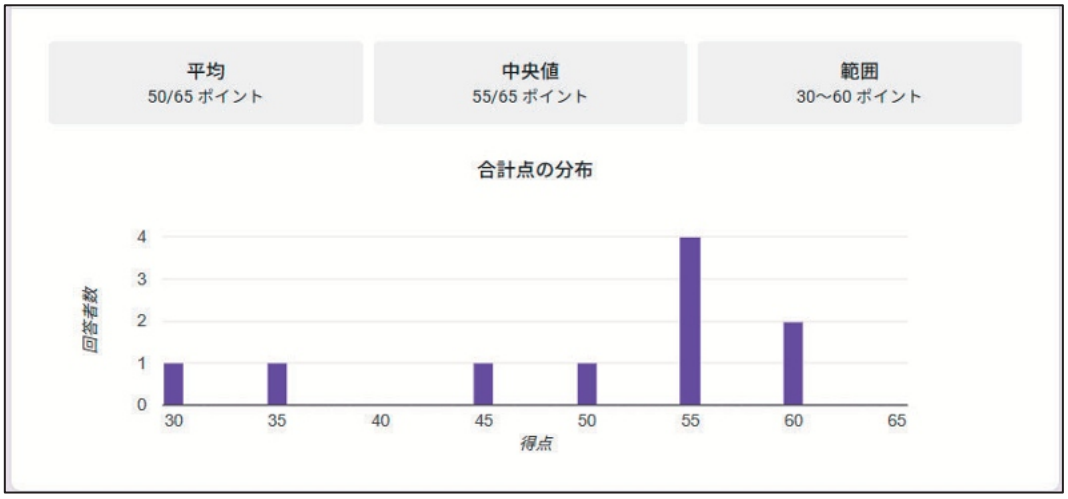


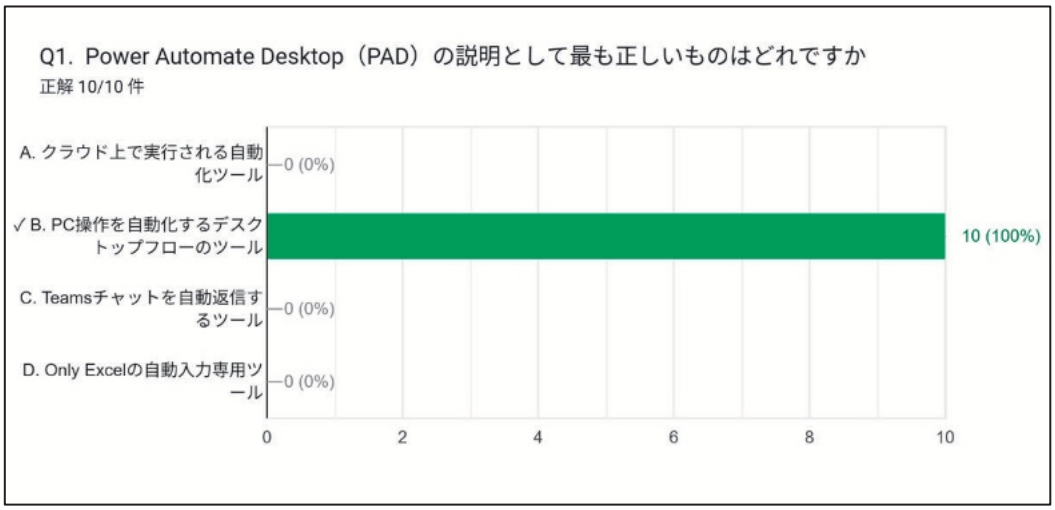

Q13. Power Appsを使う目的として最も適切なのはどれですか？

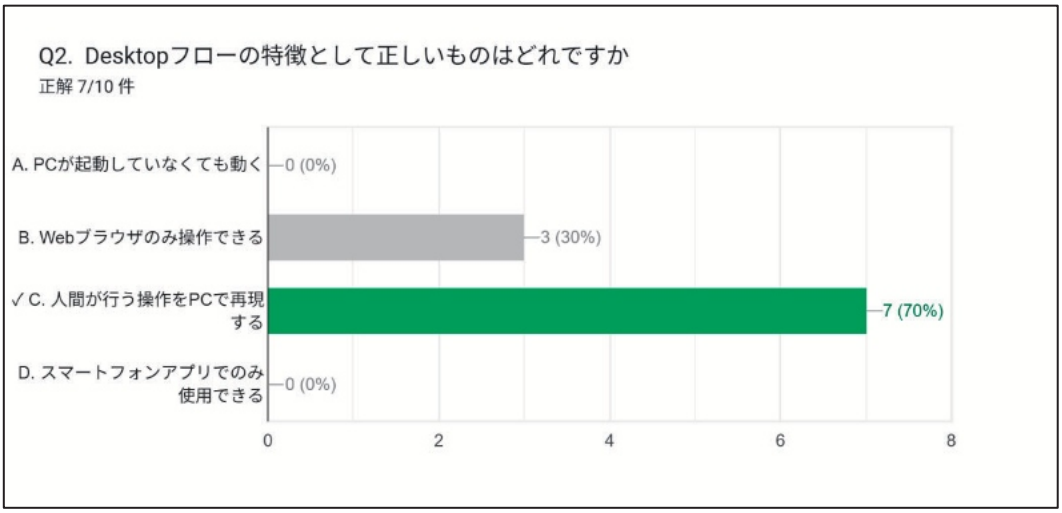
正解 11/11 件



「Power Automate」理解度テスト結果（社会人）

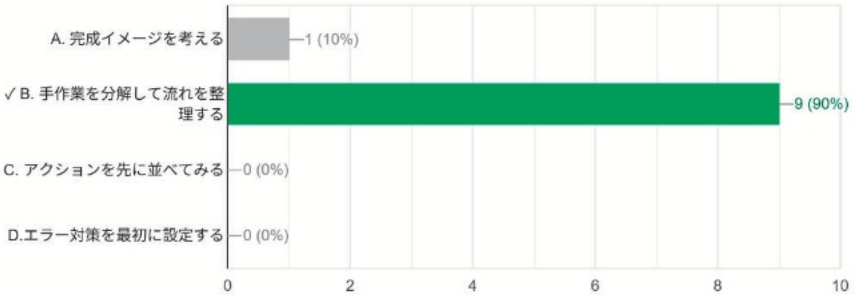


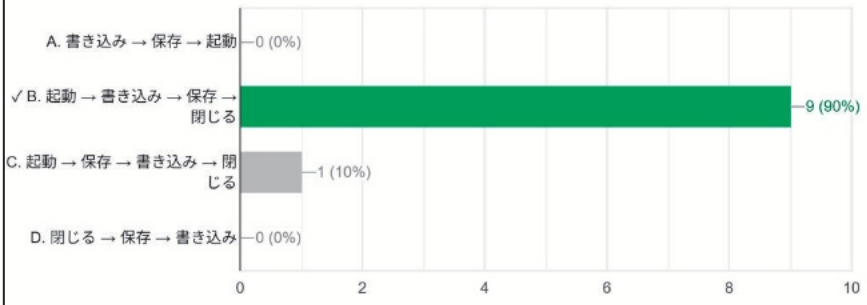
Q3. 自動化設計の最初のステップとして最も適切なものは どれですか

正解 9/10 件




Q4. Excelにデータを書き込む際に正しい順序となるものはどれですか

正解 9/10 件



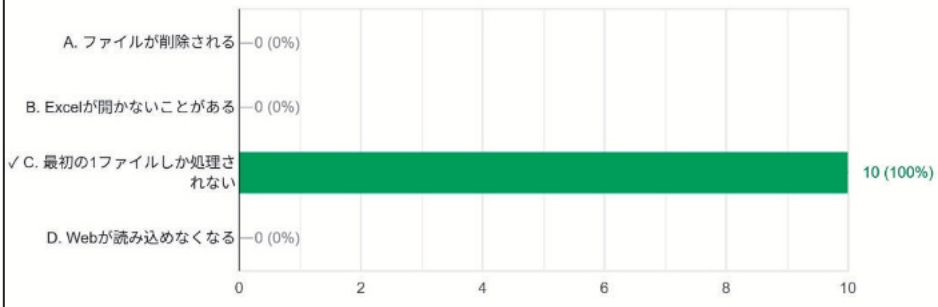

Q5. 「CSVファイルのみを対象にする」ために必要なアクションはどれですか

正解 3/10 件




Q6. Loop処理が無い場合に起こる問題として最も正しいものはどれですか

正解 10/10 件



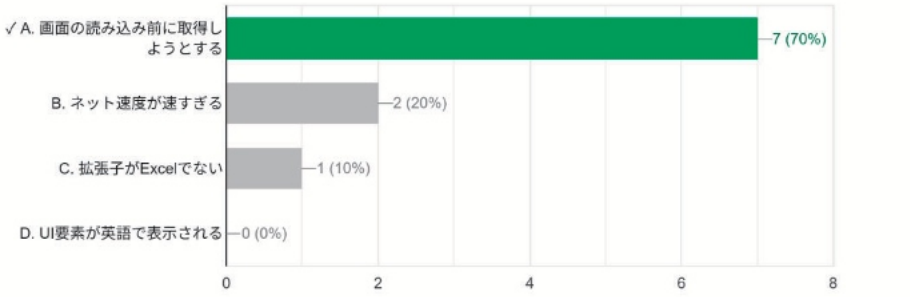
Q7. Web画面からテキストを取得する際に最も重要な設定はどれですか

正解 6/10 件




Q8. Webデータ取得が失敗する原因として最も多いものはどれですか

正解 7/10 件



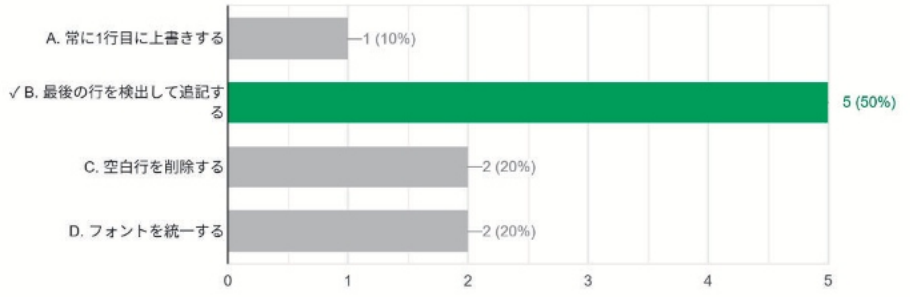

Q9. UI要素の説明として最も正しいものはどれですか

正解 4/10 件



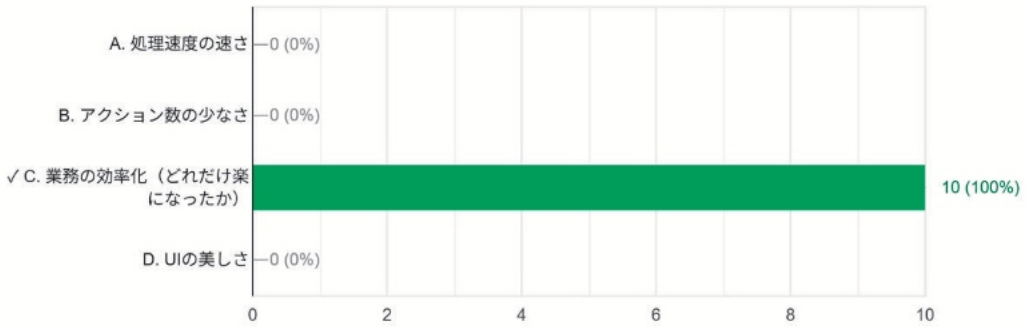

Q10. 「Webから取得したデータをExcelに追加していく」実装で重要な設定はどれですか

正解 5/10 件



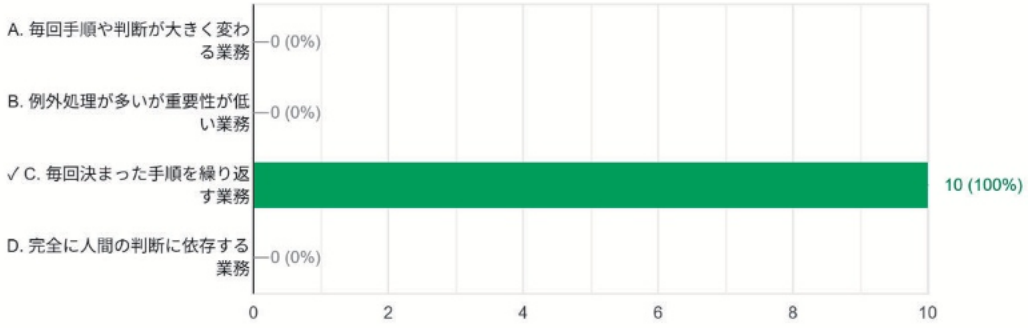
Q11. 自動化の成功を判断する最も適切な基準はどれですか

正解 10/10 件



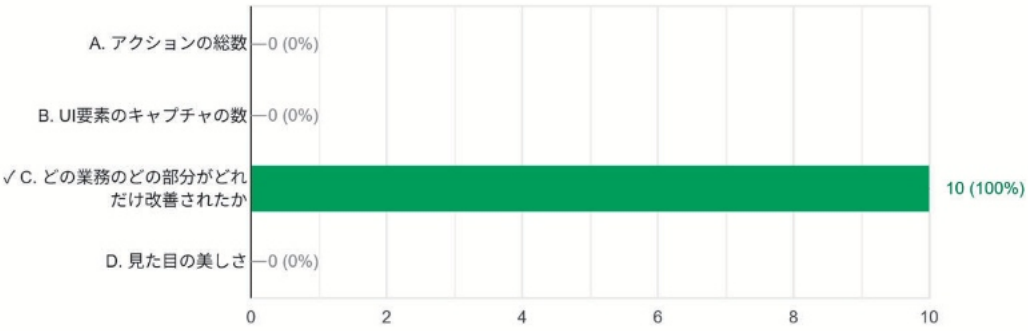

Q12. 次の中で「自動化に向いている業務」を最も正しく選んでください

正解 10/10 件




Q13. 業務改善フローの発表で最も伝えるべき内容として正しい ものはどれですか

正解 10/10 件



## 4. 実証講座シラバス・コマシラバス、使用教材

以下 QR コード参照

# 議 事 録

1. 第1回プログラム検討委員会
2. 第2回プログラム検討委員会
3. 検証評価委員会

## 1．第1回プログラム検討委員会議事録

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 文部科学省 地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業<br>【先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業】<br>令和7年度第1回 プログラム検討委員会 |
| 開催日時 | 令和7年7月30日（水）15:00～16:30 |
| 開催場所 | 学校法人穴吹学園 穴吹ビジネス専門学校（福山市東町 2-3-6）<br>※対面および Zoom を使用したオンライン会議 |
| 出席者 | 委員15名、事務局 1 名<br>［対面12名］山下保委員長、北原聡委員、内池雄委員、高橋洋平委員、末永聖平委員、伊藤慎二郎委員、谷本雅彦委員、後藤裕正委員、竹保義博委員、松岡基司委員、馬場隆信委員、先山清華委員<br>［オンライン3名］藤井光治委員、小笠原清人委員、増田義弘委員 |
| 当日写真 |  |
| 議事録作成 | 竹内宏典 |
| 議題 | (1)令和7年度事業計画について<br>(2)令和7年度事業年間スケジュール<br>(3)実証講座の内容説明と確認（ご意見聴取） |
| 会議資料 | 資料① プログラム検討委員名簿<br>資料② 令和7年度事業計画書<br>資料③ 実証講座説明・検討資料 |
| 議事 | 配布資料に基づき、事務局から以下の説明を行い、各委員が意見を述べた。<br>・昨年度の実施内容と結果の振り返り。<br>・今年度の事業計画、年間スケジュール、および実証講座（「生成 AI・クラウド活用」「ノーコード・ローコードアプリ作成」「RPA ツール活用」）の具体的な内容。<br><br>（高橋委員）<br>Microsoft-Apps をカリキュラムにて扱っているかのご質問については、扱っていない。本校ではプログラミング教育については行なっている。カリキュラムにてノーコード・ローコードを扱った例はない。<br>今回の事業当初、AI 機械学習として検討されているところから、かなり現実的な内容に |

| | |
|---|---|
| | なった。プログラミングが出来る人材よりツールを使いこなせる人材の方が社会であるいは企業から求められている。ツールを使いこなせる人達が DX を担う人材になっていく。DX 人材を育成するという点では、良いカリキュラムになっている。<br>今回の実証講座についてオンライン対応可能であれば、本校の職員もぜひ受講したい。<br>オンライン対応は可能か<br>（事務局）<br>実証講座は対面での運営を考えている。オンライン講座対応できるのであれば、幅広く対応していきたい。<br>懸念点として、実証講座で必要な実習環境（マシン環境、アカウント）などが揃えられるかどうかを検討してからとなる。<br>今回、社会人も対象に設定した理由は、学生の受講人数が7名と少ないほか、社会人が実証講座を受け、講座の内容が使える、役立てていけそうだと感じるかどうかも評価してもらいたい意図もある。<br>（馬場委員）<br>現在の専門学校生は、スマートフォンやタブレット中心の世代であり、キーボード入力やマウス操作に不慣れな学生が半数近くいるのが実情。<br>そのため、1 年次に PC の基礎操作を学んだ卒業年次の学生が、慣れ親しんだデバイスの感覚に近い形で最新の IT ツールを体験する今回のカリキュラムは、良いアプローチだと感じる。<br>（北原委員）<br>［定型処理の自動化ツールの Microsoft Automate 使用による授業での気づき、注意点について］<br>経理系の学生に対して、Microsoft Automate を使用した実習を行なっている。<br>注意点としては、画面がフラットでどこに何があるのかが分かりにくい。学生に指導するうえでは、実際の操作について、学生のPCと同じ画面を見せながら操作した方が学生もついてき易い。操作が簡略化されている分、操作画面のページ遷移が速く、学生がついてこれないので注意が必要である。操作をすすめると次々に画面が切り替わっていくので、学生の操作画面状況をその都度確認しながら、授業を進めていかないといけないのでなかなか授業が進行しないこともあり、注意が必要。<br>生成 AI の授業について本校においても悩みがある。教員が授業準備した後、授業する時間となると、AI の出す回答が結構こなれてしまっていて、回答を引き出すまでの手順が不要になってしまったり、事前準備したシナリオが使えなくなったりすることがある。<br>教員としては授業準備をしっかりしたいけれども、直前にもう一度確認しなければ、何か動きが違ったり、あるいは人によって動きが違ったりすることがある。<br>従来の授業準備とは対応が異なってくる。今回の実証講座にて生成 AI を扱うので、何かよいアイデアがあれば共有させてもらえればと考えている。<br>（竹保委員）<br>［生成 AI について企業研修等での対応状況について］<br>研究会として講師を呼んでの取組みあり。企業側での関心が高いが、まだ具体的にどういう場面で活用するかまでは至っていない。講師から生成 AI がとういうものか、どういう |

| | |
|---|---|
| | ところで活用するか、ということを学んでいる段階で、これから具体的な利用目的を考えている段階である。<br>（谷本委員）<br>［生成 AI について企業研修等での対応状況について］<br>中小企業が多く、生成 AI をあまり利用していない。<br>今回の事業での気づきとして、文系の学生に IT への興味を持たせるには、座学だけでなくインターンシップなどを通じて、企業が現場で IT をどう活用しているかを体験させることが不可欠。<br>企業と連携し、現場の課題解決に繋がるような実践的な学びの機会を設けないと、表面的な知識で終わってしまう懸念がある。<br>（後藤委員）<br>［企業との連携についての取組み環境等の例について］<br>福山商工会議所としては、直接行なっていないが、外郭団体の福山産業振興会では、学生と直接、簡単なインターンシップを行なっていこうという動きがある。<br>また、福山市にて雇用対策協議会が支援してインターンシップを行なっている。<br>福山商工会議所としても社会人向けの講座や、学生向けのインターンシップなどの開催についての広報などについて協力したい。<br>（内池委員）<br>［企業連携についての気づき等について］<br>群馬県には自動車関連の工場が多い。工場の人たちはパソコンを敬遠、紙ベースでのやりとりが根強く残っている。アプリをつくってデータ共有、簡単なWebサイトを作っての情報共有など提案してもやりたがらない。デジタル化のためのハードがあるけれども受け入れるための土壌ができていない難しさがある。企業の若手は、スマフォなどにて使用してくれるが、中堅以上の社員の理解は得られない。トップの人は、DXを口にするけれど、社内での仕組みが下位まで伝わっていない、状況の企業が多いと感じる。<br>DX推進に向けて最初は勢い良いが、全社的に取り組もうとすると失速していく印象が強い。そのことについどう対処するには、学校と企業担当者が貫き通すという強い意思が必要となる。加えて、パソコン嫌いのベテラン社員をどう納得させるかが必要で技術面でないとろが足かせになることが多い。<br>企業において既にプロジェクト化されている事業内容であれば、企業の状況をヒアリングして、実際に一緒に課題解決していくことは大変意義がある。<br>製造業の現場ではまだ紙文化が根強いが、「お弁当の発注」のような、お金をかけてシステム化するほどではないが、デジタル化すれば便利になる業務は多い。そうした身近な課題を学生が解決するようなプロジェクトも面白く、有意義である。<br>（松岡委員）<br>［福山市役所での生成 AI 利用状況について］<br>福山市役所でも生成 AI の導入は進んでいるが、主に企画系、事務系の部門で活用されており、窓口系、技師など部門ではあまり利用していない。まだ全庁的な広がりには至っていない。<br>本カリキュラムの方向性は、サービスの「開発」ではなく「活用」ができる人材の育成と |

| | |
|---|---|
| | 理解しているが、その認識で間違いないか。（→事務局よりその通りである旨の回答）<br>ツールが「使える」だけでなく、それを使って「課題を解決する」「面白いものを作る」といったゴールを設定することが、学生のモチベーション向上に繋がるのではないか。<br>（増田委員）<br>中小企業が AI 活用を検討する際、最も求めているのは具体的な「導入事例」。<br>どのような課題をどう解決したかという事例を示すことで、自社でも活用できるのではないかと興味を持つきっかけになる。<br>（小笠原委員）<br>［ノーコード・ローコードツールを利用状況、ビジネスでの案件等について］<br>システム開発が主業務のため、ノーコードツールを直接使うことは少ない。しかし、顧客支援の案件 RPA の導入などを手伝うケースはある。<br>AI 活用については、要件定義や設計書作成といった部分的な業務から導入を進めている段階。さらには詳細設計からコード記述まで落とし込んでいければと考えている。開発手順の一連の流れのうち、まだ5割程度まで対応できているという状況ではないので難しい状況ではある。<br>AI を組み込んだアプリケーションを開発して欲しいという依頼を受けて納品した例もあり、現状、案件として挙がっているものが2～3件ある。<br>AI を利用してという事例になると、学生のインターンシップで3日間位、課題作業を設定し、OpenAI を使用して作業を効率化することを体験的に行っている。<br>（藤井委員）<br>［ノーコード・ローコードツールを利用状況、ビジネスでの案件等について］<br>システム開発が主業務のため、ノーコードツールを使ってという仕事を受けている事例の報告はない。<br>RPA の製品については販売しているので、その製品についての支援に入ることはある。<br>ノーコード・ローコードツールについては、自社内で所属している人事・総務部署にて使用するために、今取り掛かり始めているところで、現状あまり使っていない。<br>（伊藤委員）<br>今回の実証講座の対象が公務員を目指す学生であれば、自治体における生成 AI の活用事例（例：議事録作成の効率化など）をカリキュラムに盛り込むと、学生が将来の自分の仕事と結びつけて考えられ、より実践的な学びになるのではないか。<br>（末永委員）<br>今回の実証講座で得られた学生の反応や成果（フィードバック）が、最終的に 8 ページの「開発カリキュラムモデル」にどのように反映され、改善されていくのか、そのプロセスについて質問。<br>（事務局）<br>実証講座での学生のつまずき、理解できなかったこと、理解出来た、学んだこと講座受講して、さらに興味をもって学んでいきたいかなど、についてアンケートにて把握する。アンケート結果を踏まえて、今後のカリキュラム、シラバスにも反映させていきたい。 |

| | |
|---|---|
| | （末永委員）<br>資料② 8ページ「開発モデルカリキュラム」の内容について、多くの科目があり、それに対応する多くの実証講座が必要になると思うが、どの程度実証講座を実施する状況にもっていけるのか<br>（事務局）<br>資料② 8ページ「開発モデルカリキュラム」の内容については、あくまで現状の叩き台としての内容。全ての内容について実証できるかというと無理がある。難しい内容もあり、検討・修正が必要となる。今回は実証講座として、ノーコード・ローコードツールを利用しての内容となる。<br>実証講座を行った後のアンケート結果により、学生が取組みし易くなる方法、理解度、学習レベル、学生が興味をもって取組めた内容などを検討しながら、カリキュラムを修正いていく。<br>（山下委員長）<br>初年度は AI の「開発人材」育成を目指したが、委員の意見を参考に、2 年目はより現場のニーズに即した「活用人材」の育成へと方向転換した経緯を補足。<br>実証講座の対象を公務員学科の学生としたのは、PC 操作に不慣れな学生が多いため、基礎から学びつつ IT 活用の面白さを体験してもらうのに適していると判断したため。学生に「興味を持たせる」ことが重要。自分たちが普段使っている技術が、社会でどう役立つのかを実感できるような授業にしたい。<br><br>事務局より、今回の委員会議事全体についての意見、質疑等が無いことを確認した。<br>10 月以降の実証講座の実施、および今後の委員会開催スケジュールについて連絡をし、閉会した。 |

## 2. 第2回プログラム検討委員会議事録

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 文部科学省 地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業<br>【先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業】<br>令和7年度 第2回プログラム検討委員会 |
| 開催日時 | 令和 8 年2月6日(金)10:30~12:00 |
| 開催場所 | 学校法人穴吹学園 穴吹カレッジキャリアアップスクール福山 310教室<br>(福山市三之丸町30−1) ※対面会議 |
| 出席者 | 委員9名、事務局 1 名<br>内池 雄委員、高橋洋平委員、杉田由明委員、藤井光治委員、<br>桑田聖一委員、谷本雅彦委員、竹保義博委員、松岡基司委員、先山清華委員 |
| 当日写真 |  |
| 議事録作成 | 竹内宏典 |
| 議題 | (1)実証講座実施報告<br>(2)ご意見聴取・評価等<br>(3)次年度の予定 |
| 会議資料 | 令和7年度 第2回プログラム検討委員会 資料 |
| 議事 | (1)実証講座実施報告<br>(2)ご意見聴取・評価等<br>配布資料に基づき、事務局から実施報告を行い、委員が意見を述べた。<br><br>(高橋委員)<br>報告の中で、「もっと早く受講していれば進路が変わった可能性がある」という声があったのは非常に良かった。IT へのアプローチとして、直接的に結びつく結果になった。<br>また、「自分で簡単なフローを作成できそうだ」と答えた人が多く、実際にやってみたら意外とできたという「食わず嫌い」が解消されたような意見も見られた。文系学生に対して、どのように IT への価値を伝えていくかが今後の鍵だ。<br>(内池委員)<br>AI に関して、高校で情報処理が必修化されていて、基礎知識はある程度持った人たちが増えてくる。そうした中で、今回の受講者 18 名という数は、期待の表れでもあると感じた。一方で、Power Apps は少し難しく感じられた。認知度とイメージは非常に重要であ |

| | |
|---|---|
| | る。社会人の参加者 15 名が、繰り返し作業の煩わしさを解決したいという明確な目的を持って参加されていたのと比べると、学生への動機付けやテーマ設定はさらに工夫の余地があると感じた。<br>若手の強みは AI や IT ツールをすんなり受け入れられる点にある。逆に 60 代以上の参加も多かった中で、社会人としてのマインドと IT による効率化を組み合わせていく視点も面白い。単に楽をするためのツールではなく、ビジネスにどう繋げるかという感覚を持ってもらえると、さらに発展性がある。<br>趣味の延長で AI を使って絵本を作るといった授業も行われていたが、そうした「自分でも何かが作れる」というインパクトをどう与えるかが重要だ。また、社会人の Power Apps に関するアンケートで「自分で作れそうにない」という回答もあったが、操作の難しさなのか、アイデアが浮かばないのか、そのあたりの背景も考慮した課題設定（ストーリー性や具体的な前提条件の設定などを持たせ、設定した条件にあわせての課題作業など）があっても良いと感じた。<br>学生にとって Automate 自動化はイメージしづらい面あり、身近な例のアルバイトでありそうな内容、仕事に沿った事例をテーマにするのも有効。<br>（杉田委員）<br>金融機関の職場は文系出身者が多い。最近は Copilot などの導入により営業の仕組みが急速に IT 化されている。IT ツールを使いこなせば業務が劇的に効率化される。ただ、導入時の研修はあっても、一度教わっただけでは十分に使いこなせないケースが多いのが実情だ。システムの能力を 100%としたら、20%程度しか使えていないと感じることが多々ある。<br>50 代、60 代の方々も、それを使わないと仕事が回らなくなってきている。このプログラムで学んだことが実務に活かせれば非常に有意義だ。<br>例えば銀行でも、お客様との面談記録を録音して要約し、CRM（顧客管理システム）の交渉履歴に自動で入力するといった仕組みが広まりつつある。以前は 1 時間の面談後の入力作業にかなりの時間を割いていたが、今はツールを使えばコンパクトに、しかも読みやすい文章でまとめられる。書く側だけでなく読む側の効率化にも繋がり、こうした講座で基礎を学んだ人が職場に増えることは非常に大きな意味がある。<br>（桑田委員）<br>学生向けと社会人向けの両方を実施したのは面白い試みである。学生は吸収が早く前向きだが、社会人の中には「少し難しかった」と感じる方もいた。60 代以上でチャレンジされている方も多く、その意欲は素晴らしいと思った。<br>学生は趣味など興味があることから入りやすいが、社会人はどうしても「仕事にどう結びつくか」という視点になる。仕事でうまくフィットすれば大きな効果が出るが、学んだことをすぐに実践するのが難しい、あるいはすぐに忘れてしまうという課題もある。<br>会社から派遣されて受講している場合であれば、職場に戻った際に周りがサポートして成果を確認するような体制があれば、学んだ内容がより活かされる。古い考えの職場だと「従来通りのやり方でいい」とせっかくの学びが潰されてしまう可能性もあるため、本人の意欲だけでなく、職場全体の理解も必要だ。 |

| | |
|---|---|
| | （事務局）<br>地元の企業で、Power Platform（Power Apps や Power Automate）などのローコード・ノーコードツールを活用する動きはどの程度あるのか。<br>（桑田委員）<br>様々な IT ツールがあるが何が良い悪いではなく、現状のアナログな仕事や属人化している業務をどうデジタル化していくかが課題である。ツールに入れる前段階のプロセス整理（フォーマット化や見える化）が手間なので、つい「今までのやり方でいい」となってしまいがちである。ただ、ベテランから若手への業務継承のタイミングなどで、マニュアル整備と合わせて IT ツールを導入する動きは、徐々に増えてきていると感じる。<br>（谷本委員）<br>中小企業では、IT 専任者がおらず現場のスタッフが自ら業務改善を行う必要がある。現場主導での業務改善やアプリ作成を行なえるための今年度実証講座の取組みを拡げていくことで、さらに高度な内容に引き上げることが出来れば大変よい取組みと考える。<br>（竹保委員）<br>当事業所の特性上、理系分野の内容を扱う事例になる。<br>対応している事業所の年齢層が高く、IT ツールを利用しての業務改善等が進んでいない。今回の実証講座のアンケート等資料をみて、自身でも受講してみたいと感じた。<br>事業所で IT ツール利用の研修予算を検討する場合、経営者に動機づけできるかどうかが重要である。成功体験を積み重ねることで、アピールすることが必要。<br>（藤井委員）<br>　今回のアンケート結果を見ると、Power Apps が難しかったという意見が学生・社会人共に見られた。カリキュラムの順番として、先に Power Automate（自動化）をやってから Power Apps（アプリ作成）に行ったほうが、フローの概念が理解しやすかった可能性はあるか。<br>（事務局）<br>確かにある。Power Apps は「具体的なアプリを作る」ということでとっつきやすいイメージがあったので先に持ってきました。自動化の処理フローを考える Power Automate については、例えば Excel 操作、処理についての手順を設定していくことの方がイメージとして湧きづらいと考えた。<br>しかしアンケート結果を見ると Apps より Automate の方が興味をもったとの感想からすると Automate を先にした方がよかったかもしれない。<br>（松岡委員）<br>　今回の実証講座を見学し、学生が自分の興味に基づいて取り組んでいる姿が非常に印象的であった。入門編としては非常に良かった。実際にこれを仕事で使うとなると、若い人はどのようなツールであってもすぐに使いこなせるようになると思う。そのため、ツールの使い方そのものよりも、「どのように課題を解決するか」「何を課題として設定するか」、そして「どのようなフローで、どこに課題があるのか」を見つけ出すための授業もセットで学ぶ必要があると感じた。<br>また、社会人については逆で、普段の仕事の中で課題解決に取り組まれているため、「ツールを使って何が実現できるのか」を知りたいというニーズが多い。そのため、学生と社 |

| | |
|---|---|
| | 会人では授業の内容を分けていく必要があると感じた。<br>　実際に私の職場でも AI や kintone など、さまざまなものを導入しているが、結局は「使う側の意識」や「どのテーマで使うか」が重要である。一人ではできないこともあるため、周囲をどのように巻き込んで課題解決するかという点も重要である。ツールの使い方は分かっても、活用しようとする意識や風土、トップダウンの考え方などが実際の仕事では大きな影響を与えると感じる。<br><br>（3）次年度の予定<br>事務局より次年度の取組み内容について説明した。<br>（事務局）<br>次年度はデザイン思考を取り入れた人材育成を目標とする。<br>その他、より効果的な手法として、企業連携（インターンシップや PBL など）を検討している。企業連携を検討する中で現実感ある事例にて、取り組める内容、参考例があれば、委員の皆様よりご意見いただきたい。<br>この取り組みについて、企業側の負担なども考慮しつつ、どのような進め方が可能か検討していきたいので、ご参加の委員の皆様からもご意見をいただきたい。<br>［杉田委員への確認］<br>　先の発言の中で、IT 活用で商談内容の音声データ化して蓄積するとお聞きした。<br>例えば新人研修などでの IT 活用研修への取組み、研修時にあればよい知識等について教えて欲しい。<br>（杉田委員）<br>　IT 関連の研修は、新人研修で特定するのでなく定期的に実施。昔は資料作成時に Excel 等へデータ等を集めて手入力していたが、現在は既に必要データが存在している。目的にあわせて、そのデータをどう引っ張ってきて、どう分析して質の高い資料にまとめることができるかが重要。 それに対応できる人は組織内で限られる。興味のある人が独自に勉強していて、組織的な研修などを行なうや手順を確保する状況ではない。上記に対応できるスキルの必要性は強く感じる。<br>（内池委員）<br>　以前、企業と連携して学生が課題解決に取り組んだ事例では、Excel を使った現場のちょっとした改善が非常に喜ばれたことがあった。群馬県での事例だが、工場の弁当発注をこれまでは事務の人が紙で管理し、FAX で送っていたものをデジタル化した事例があった。200 人規模の工場を回って回収していた手間が、10 分程度で終わるようになった。また、工場のインターンシップが「つまらない」という声に対し、専門学校生が工場のキャラクターをデザインし、AR（拡張現実）を使って工場内でキャラクターを探すゲーム性を入れたところ、参加者が増えたという事例もあった。<br>他には、工場のヘルメットにチップを埋め込み、作業員が倒れた際に携帯をかざすと血液型や緊急連絡先がすぐに分かるというアイデアもあった。<br>こうした「通常業務に大きな支障を与えず、かつ命を守る、あるいは利便性を高める」といった身近な課題を見つけることが大切です。いきなり難しいことをやるのではなく、エ |

| | |
|---|---|
| | 場見学などを通じて課題を見つけ、プレゼンし、採用されたものを皆で形にするという流れで進めている。<br>（事務局）<br>　過去に市役所のアルバイトにて、マイナンバーカード手続きにて、携帯端末への入力サポートがあった。例えば市役所にて関われる事例があったらお願いしたい。<br>（松岡委員）<br>結構ある。 各部署へ確認すれば、軽い内容から存在するので問い合わせください。<br>例えば情報発信に係る内容などが考えられる。業務フロー的な内容になると個人情報などの点から対応できないこともある。<br>（桑田委員）<br>インターンシップにて、自社内社員カードを想定して、入退出管理、勤怠状況、勤務時間集計等を題材に実施したことあり。 学生にとっても、一週間の限られたインターンシップ期間で達成感を得られるようなゴール、設定が必要であった。 業務改善テーマ―とする場合、業務そのものについて説明、理解してもらうには時間がかかる。<br>（藤井委員）<br>企業現場での事例を考えると現在、ワークフロー導入について準備しているが<br>社外の受講者が扱うには、個人情報等、不適切な内容がある。企業と学生が Win-Win になれるような課題設定を一緒に考えていければと思う。<br><br>（事務局）<br>次年度 3 年目は最終年度となる。当初の「先端 IT 人材育成学科」という名称から、より「現場での IT 推進力・活用力」を持った人材の育成という方向にシフトしてきた。<br>次年度の実証講座では、ツールの使い方はもちろん、その前段階の「課題を見つけ、どう解決するか」という考える力を養うこと及び、関連してデザイン思考に重点を置くことについて検討すすめていく。<br>本日の委員会でのご意見を参考に、より具体的な内容を詰めて、次回の委員会で報告する。<br><br>　終了予定時間となったため、 参加委員への謝辞を述べ、閉会とした。 |

## 3. 検証評価委員会議事録

| | |
|---|---|
| 会議の名称 | 文部科学省 地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業<br>【先端 IT 人材育成学科新設プログラム開発事業】<br>令和7年度 検証評価委員会 |
| 開催日時 | 令和7年12月10日（水）14:00～16:40 |
| 開催場所 | 学校法人穴吹学園 穴吹調理製菓専門学校（福山市東町 2-2-24）<br>※対面および Zoom を使用したオンライン会議 |
| 出席者 | 委員5名、事務局1名、事業コーディネーター1 名<br>[対面5名]　内池雄委員、松岡基司委員、馬場隆信委員、先山清華委員<br>長谷川直樹 （事業コーディネーター）<br>［オンライン 1 名］ 北原聡委員 |
| 当日写真 |  |
| 議事録作成 | 竹内宏典 |
| 議題 | (1)実証講座（Microsoft PowerAutomate 定型処理自動化）の見学<br>(2)実証講座（10～11 月）実施報告<br>(3)実証講座 検証評価（ご意見聴取・評価等） |
| 会議資料 | 資料① 令和7年度 プログラム検証評価委員会 資料<br>資料② 実証講座使用テキスト |
| 議事 | 配布資料に基づき、事務局から以下の説明を行い、各委員が意見を述べた。<br>・今年度の実証講座実施報告<br>・今年度の実証講座 受講アンケート及び、確認テスト実施結果報告<br>・今年度の実証講座（「生成 AI・クラウドサービス活用」「Microsoft PowerApps アプリ作成作成」「Microsoft Automate 定型処理自動化」）の具体的な内容。<br><br>（事務局）<br>今回の講座は生成 AI・クラウドサービス活用、Apps、Automate の三本立てで実施した。学生の感想としては、Automate が最もやりやすかったという意見が多かった。Apps のアプリ作成の方が面白さを感じると思っていたため、“Apps は難易度が高かった”という学生の声は意外であった。<br>公務員系学科の学生は、カリキュラムとして Excel と Word の授業はあるが、それ以外のコンピュータ・IT 関連授業は無いとの担任からの情報が共有された。その前提で、参加学生は、今回の IT 系講座によく取り組んでいた。 |

| | |
|---|---|
| | （馬場委員）<br>公務員系学生は「公務員試験合格のみ」を目的に入学しており、9～10 月の採用試験が終わるまでは試験対策以外を一切行わないことにしている。試験終了後の後期授業では、ローマ字入力の基礎から教える必要がある。また、最近の学生はタッチパネル世代であり、キーボード入力やマウス操作に不慣れな者が多い状況だ。PC を“古い機械”と捉えている節もある。<br>今回参加した２年生は１年次後期に Word・Excel・PowerPoint を履修済の学生で、学科としての“精鋭”と呼べる層であった。今回の講座への取り組み姿勢は予想以上に真面目であり、発表を見て泣きそうになるほどであった。<br>学生が大きく変化する可能性を感じ、極めて有益な事業であった。<br>（内池委員）<br>自校にも公務員系学科があり、公務員試験対策は厳しい環境で行われており、毎日遅くまで講習が続いている。教員の負担を軽減する意味でも、生成 AI を面接対策や数的処理に利用し始めている。<br>学生へのヒアリングでは、生成 AI は生活のためではなく、“学校の面倒なことをこなすためだけに使う”という実態が見えた。20 歳前後の学生がもっと AI を使っていると思っていたが、実際には違ったということがわかった。遊びの計画や学校行事の企画など、AI をポジティブな場面で使わせることが必要だ。<br>長谷川コーディネーターが質問された「この講座をもっと早く受けていたら進路が変わったか」に、ほとんどの学生が頷いていたことは高く評価できる。学生が知らないことによって進路選択が狭められている可能性があり、専門学校に限らず高校・中学での導入が有効だ。<br>また、ビフォーアンケート（受講前調査）があれば、PC 利用状況や意識変化がより明確に測ることができる。<br>（松岡委員）<br>学生は非常に熱心に取り組んでいたことは、評価できる。講座内容・時間配分も適切であった。しかし、成果共有の場において「どこが改善点だったか」「どこに苦労したか」という説明が弱かった。生活や仕事に直結するテーマ設定が重要である。<br>業務改善の第一歩である“タスク分解”が学生に不足している。上流工程（課題発見・課題把握）の力がないと、AI・IT 活用の意味が薄れる。<br>市役所でも IT を使える人材育成を進めており、こうしたスキルを持つ学生は即戦力になる。<br>（長谷川コーディネーター）<br>文系志向で PC が嫌いな学生が多いと予想していたが、実際には吸収が早く、能力の高さを感じた。IT スキルは高校卒業時点で突然選ばされるより、早い段階で学ぶことで進路選択の幅を広げることができる。大学での「教養」に近い位置づけで、IT 基礎を教育することの価値は大きい。<br>（北原委員）<br>オンライン参加で画面は見づらかったが、学生がアプリを作る体験そのものが非常に重要だ。初めは自分のために作るアプリでも、使ってもらう意識が生まれ、より良いものにしよ |

| | |
|---|---|
| | うとする過程が生まれることについては評価できる。<br>生成 AI を使って良かったという学生の声も確認され、自校の学生も「嫌なことは AI にやらせる」という傾向が見られる。AI を使うことで「使ってみると意外と有用だ」と体験的に理解できた点は価値がある。<br>（事務局）<br>今回の受講者は学生と社会人を分けて実施した。操作理解の速さは学生が優位であった。社会人（40～60 歳代）は業務活用の意欲は高いが、PC 入力やコード理解で時間がかかる傾向があった。<br>学生は「意味よりまず動かす」というスマホ世代の操作感覚で、Copilot を活用しながらアプリ作成を行っていた。学生はボタン設定の関数コードを Copilot に繰り返し問い合わせながら仕上げていた。終盤にはスマホで Copilot に質問しつつアプリを構築する学生もいた。アプリ作成そのものに興味を持っている様子が見えた。<br>昨年の Python 体験実証講座では文字ベースの画面表示が多く、学生の興味を引きにくかった。一方 Apps はスマホ UI に近く、視覚的に興味を持ちやすいため、より取り組みやすかった。<br>アプリ作成からデータ構造、SharePoint、データベースソフトの利用へ発展させる余地があるが、深い内容に踏み込むと学生がアレルギー反応を示す懸念もあり、慎重に扱う必要がある。この件について、北原委員に意見を伺いたい。<br>（北原委員）<br>以前はビジネス系学科対象に MS-Access を利用することがあったが、バージョン差異などの不具合が起き、教員の負担が大きい。SQL は英語ベースで難易度が高く、黒い画面での文字出力では達成感が得られない。GUI ベースの管理画面を併用するなどの工夫が必要である。<br>クラウドツールは更新が頻繁で、資料作成時と授業時で UI が変わっていることもある。スライド説明ではついてこられない学生が多く、講師が学生と同じ画面を同じ速度で操作する「伴走型」が最も効果的であった。<br>（松岡委員）<br>市役所ではデジタル人材を各部署に配置し、IT パスポート取得支援などを行っている。課題を適切に見つけ、解決の方向を判断できる人材は 1 年目から即戦力になる。<br>学生は働いていないため課題に気づきづらい。課題発見の視点を養う教育が必要である。<br><br>続いて事務局より配布資料に基づき、実施した内容・アンケート結果の詳細を報告した。<br>（事務局）<br>実証講座でのグループワークは就職活動状況により実施できず参加した学生間での共同作業となった。Apps は「難しい」という声が多く、Automate は「分かりやすい」「また使ってみたい」という声が多かった。学習希望分野として Automate 応用・Microsoft365 実務活用・データ分析などが挙がった。<br>（内池委員）<br>アプリ作成は時間がかかるため、ある程度テーマ条件を絞った“業種別課題”のような形 |

| | |
|---|---|
| | にすると学習がスムーズになる。<br>　例えばケーキ屋のような業種で、“こういう点で困っている”という相談を受けたと仮定し、学生に三人一組で『ではどう解決するか』とディスカッションをさせるような形式が考えられる。条件をある程度限定した課題を提示することで、より早い理解につながり、効果的に課題解決へ導くことができる。<br>（長谷川コーディネーター）<br>今回グループワークを実施できなかった点は惜しい。<br>分からないことを他者に尋ねることで理解が深まり、学びが促進される点からも価値がある。グループワークは質問する力や対話力を育てるためにも重要である。<br>（北原委員）<br>　学生と社会人の習得度の差は非常に大きい。<br>社会人教育は今後の大きな課題となる。社会人教育について、専門学校が 18 歳前後のみを対象とする時代は長く続かないと考えている。社会人に対する教育機会を広げることは本校としても課題であり、従来の専門学校教育のノウハウだけでは対応が難しいと感じている。今回の講座を受けた学生が、将来的に“専門学校に通ってよかった”“大学では学べないことを学んだ”と思える活動になった。今は大変な時期であっても、後になって『あのとき学んだことが役に立つ』と実感できることは専門学校の価値としても重要だ。<br>今回の講座は専門学校ならではの価値が提供できたと感じている。<br>（馬場委員）<br>　公務員学科の学生は基礎学力が高く、現代文読解が特に強い。<br>AI は文章要約で誤った結論（ハルシネーション）を出す可能性が高いが、公務員系学生はそれを見抜く能力がある。<br>　また公務員試験で資料解釈問題を大量に扱うため、散布図・ヒストグラムなどのデータ分析技能への適性が高い。<br>（長谷川コーディネーター）<br>　IT ツールの教育では、単なる操作（下流工程）ではなく、“上流工程をどう学生に身につけさせるか”が最も重要な課題であると考えている。<br>　上流工程スキルの育成には苦労している学校が多く、場合によっては授業内にリベラルアーツ的な教養教育を取り入れる取り組みも存在している。<br>　対話力の育成も重要であり、生成 AI に対して“関係者役”“店長役”などの役割を持たせ、AI との対話を通じて問題点を抽出するという教育手法を試みている事例がある。<br>AI との会話をきっかけとして『課題はどこにあるのか』を学生自身が発見できるようにする。<br>課題解決に AI を使うことも有効ではないか。<br><br>〈閉会〉<br>（事務局）次回の第 2 回委員会を 2 月に開催し、最終報告を行う予定である。<br><br>本日の委員会議事についての意見、質問事項等について、参加者に確認した。<br>特に発言が無いため、本日の会議の議事終了をもって閉会とした。 |

「地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業」

先端IT人材育成学科新設プログラム開発事業

# 令和7年度　事業成果報告書

令和8年3月

学校法人穴吹学園　穴吹ビジネス専門学校

〒720-0052　広島県福山市東町 2-3-6

https://www.aef.anabuki.gr.jp/monka-rikei